

特集「令和2年度 校外教育協会委嘱研究」



令和2年度 第55回「郷土を描く児童生徒美術展」知事賞受賞作品

「たのしかった ながしそうめん」
川口市立飯塚小学校 1年（当時） 阿久津 一真 さん

（作者から）
夏休みに家で、流しそうめんをしました。家族で楽しく食べました。青のクレヨンでそうめんが流れるところをかいて、白で、流れるそうめんをかきました。夏の太陽が、窓の外でわらっていました。

主 な 内 容

- ・会長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（2）
- ・令和3年度通常総会、校外教育研究委嘱・・・・・・・・・・・・（3）
- ・令和2年度校外教育協会委嘱研究の概要・・・・・・・・・・・・（4～7）
- ・第56回「郷土を描く児童生徒美術展」・・・・・・・・・・・・（8）



1 万年後の「郷土を描く美術展」は・・・



郷土愛を育む・・・埼玉県校外教育協会会長 村上 博俊

令和3年12月25・26日「埼玉150周年記念（埼玉未来予想コンクール）」



「皆さん、かんばんは!」本協会の看板は、郷土を描く美術展です!!
そして埼玉の教育の看板は、次の世代を担う児童生徒です。

さて、今年の「郷土を描く美術展」（兼埼玉150周年記念 埼玉未来予想コンクール）は北浦和駅前の埼玉県立近代美術館で120点の作品を展示し実施予定であります。昨年の「埼玉県校外教育協会60周年」に引き続き2年続けての近代美術館での記念の取り組みです。コロナ対策の上、お越しく下さい。

今年はもちろん、その先、出来れば1万周年記念を見てみたい。その頃の「地球人」は21世紀の「サンキュー・ありがとう・メルシー」という会話の様に、子供までが通訳なしに地球語で会話できる。人間の能力は、本来のほんの数%しか使われてないそうなので確信できる人類の進化だ。1万年後、ですから!



埼玉県がおかれることとなった廃藩置県から150年の今年行われた東京オリンピック・パラリンピックは、コロナ禍の中でも世界各国の事情を配慮し、医療・経済・科学を駆使しながら行われ、各国の対応の差や事情・実態が理解できる状況になったことは、ある意味大変意義あることと思う。「地球人」としての第一歩と受け止めることができる。

日本が様々な面で、世界に後れを取っていたり、それでいて寿命世界一であることや、東京が世界トップクラスの大都市であることも実感したり、後進国だと思っていた国の生活は東京とさほどかわらなかったり、内乱があったり敵対する国々があったりする。世界がより一層協力しないとコロナ以上の脅威には地球人は危ういと知らされた。

私が、川口市立教育研究所で教えている中国人もスリランカ人もトルコ人も、1万年もたてば、ハーフ・クォーターを通り越して新たな「地球人」になるのだ。例えば、ブラジル人をルーツに持つ子が「埼玉県で郷土愛を育み特選を受賞すること」も日常茶飯事となるということを楽しみにしている。いや、今年あるかも。いやいや、すでに、今までもあったのかも!!!

十月に入り、各学校では修学旅行が実施されている。コロナ前のささやかな日常の行事に感動すら覚える。今後、「地球人」は、埼玉県が20世紀に始めた「郷土愛を育む」この取り組みを1万年以上続けてくれるはずだ。

何事の おわしますかは知らねども かたじけなさに涙こぼるる（西行法師）





令和3年度 通常総会・臨時総会

通常総会

令和3年6月8日(火)に、埼玉県庁教育局分室で令和3年度通常総会を開催いたしました。

当日は、令和2年度決算などの2議案が提案され、全てが原案のとおり承認されました。

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、昨年度に引き続き今年度も規模を縮小した上で、通常総会を開催いたしました。

また、本年6月に実施を予定していた協会設立60周年記念式典につきましては中止といたしました。

臨時総会

令和3年8月27日(金)に、規模を縮小した上で、オンラインにて臨時総会を開催いたしました。

理事の選任についての議案が提案され、原案のとおり承認されました。



校外教育研究委嘱



令和2年度研究委嘱校による研究の概要については、4~7ページに掲載していますので、御覧ください。また、令和3年度研究委嘱校は以下のとおりです。



《令和3年度校外教育研究委嘱校及びテーマ》

学校名	テーマ
さいたま市立大宮西小学校	潤い自然園を軸とした体験活動の充実による、積極的に環境と関わり生き生きと学ぶ児童の育成
熊谷市立江南南小学校	地域の特性を生かした「校外学習」の在り方に関する研究
和光市立第二中学校	地域との連携する活動を通し、地域に貢献できる人財育成
東秩父村立東秩父中学校	地域の伝統文化を学ぶことを通して、主体的に生きることのできる生徒の育成

「豊かな体験活動を通して自分をみがき 地域とともに生きるかのうっ子の育成」 ～学校ファームの取組を通して～

委 嘱 校 桶川市立加納小学校

1 研究主題

本校は豊かな自然環境に恵まれ、学校の立地や地域との交流を生かした特色ある教育活動を進めやすい環境が整えられている。本校は、桶川市教育委員会が借り上げている約500平米の学校ファームを有し、地域の方が協力してくださっていることから、学校ファームの取組を通して、児童の学習意欲を高め、望ましい勤労観を育成するとともに地域との連携及び食育の推進を図ることを目指し、テーマを設定した。

2 本校の取組

○各学年の取組

野菜の栽培に当たっては、学年児童全員で種まき（苗植え）を行い、定期的に観察して記録をしたり、除草作業や水やりをしたりすることを通して、世話の大変さを経験したり、野菜の生長具合を実感したりすることができた。

今年度は、収穫した野菜等を学校で試食することができなかつたので、各家庭で調理して試食することとしたところ、食べ物への意識の高まりや農産物への愛着が感じられる感想が多くあった。

自校給食で収穫したじゃがいもを給食で提供し、全校児童で食することを通して、給食や食材への関心を高めるとともに、食を大切にし、食を楽しむ心を育むことにもつながった。

○なかよし学級（特別支援学級）の取組

なかよし学級における学校ファームの取組は、畑での栽培活動を通じた実感を伴う学びであり、子供たちにとって大きな意味をもつ。野菜の世話を経験し、収穫の感動や調理して食べる喜びを味わうことができた。

学習面でも、算数で、じゃがいもの数を数えたり、重さを量ったりするとともに、収穫した感動を図工で作品に表したりするなど、多様な学びを通じた意欲に基づく学習の積み重ねによって望ましい学習態度や生活習慣の形成にも結びつけることができた。



肉じゃがの給食メニュー



育てた野菜の収穫体験



教科等の学習に活かす



3 成果と課題

成果：農作物を自分たちの手で育て収穫することで、農業の大切さや農作物への理解が深まるとともに、その過程で地域の方との交流が深まった。全学年が計画的に野菜を栽培し、試食したり、給食に活用したりすることは、食育の視点でも大きな成果があった。

課題：農業への知識や経験のない教職員も増え、現状のままの活動を維持することは課題である。農業に関わりのある地域性やCSという強みを生かしながら、地域と連携した学校ファームの取組を推進していきたい。



地域の方に野菜の世話の仕方を教えていただく

「体験活動を通して地域とともに育む心豊かな児童の育成」

委 嘱 校 加須市立加須南小学校

1 研究主題

平成10年に創設された比較的に新しい学校である。加須市市街地の東武伊勢崎線以南の地域を学区としている。西から富士見町、南町、高畑地域で構成されている。加須市では、小麦も県内トップクラスの作付け面積でうどんが有名であり、「加須の手打ちうどん」とも呼ばれる。在籍児童数は202名、9学級（特支学級2含む）、教職員22名（会計年度任用職員8名含む）である。

開校当時から地域の方々の見守りや学校への協力があり、「学校応援団」の6人のふれあい推進長が学校内に常駐し、校内の環境整備や児童の学習への支援等の中心を担っている。一方、活動がマンネリ化していることや構成メンバーの高齢化が課題である。そこで「地域とともに歩む」という目的を再認識し、地域の方々と一緒に活動し、心豊かで地域に愛着をもった児童の育成を図る。

2 本校の取組 <写真は、令和元・2年度使用>

○年間スケジュール

- 4月
 - ・学校応援団年間指導計画の見直し、作成
 - ・ふれあい推進長紹介集会（全校児童）
 - ・除草活動（地域敬老会参加） 中止
 - ・地域パトロール会議（地域）
- 5月
 - ・避難訓練 子ども110番の家確認（全校児童）
 - ・田植え体験（5年生） ※10月に稲刈り体験
- 7月
 - ・地域夏祭りへの参加（全校児童）中止
- 9月
 - ・地域敬老会への参加（郷土芸能クラブ）中止
 - ※郷土芸能クラブは地域行事や養護施設への参加
 - ・地域への街探検（2年生）
 - ・地域スーパーや消防署等への校外学習（3年生）
 - ・不動岡高等学校との交流（5年生）中止
- 12月
 - ・加須幼稚園・みなみ保育園との交流（1年生）
- 2月
 - ・開校記念集会（全校児童）
- 3月
 - ・研究成果の確認、取りまとめ

【常時活動】



[登下校の見守り]



[環境整備]

【学習支援活動】

- ・生活科や総合的な学習の時間等に、積極的に地域の方にお世話になり、楽しく体験しながら学習を深めている。



【伝統芸能の継承活動】

- ・郷土芸能クラブで「和太鼓」や「踊り」を教わり、地域行事にも参加し、学んだことを披露している。



3 成果と課題

- ・地域人財を活用することで、子どもたちも保護者も地域の方々とのふれあいが図られた。また、地域行事への参加をとおして地域愛が育ち、他者への思いやりの気持ちが育まれてきた。
- ・学校応援団の方々の高齢化とそれに伴う新たな人財のさらなる確保が課題である。教科横断的な学習を進める上で、地域の方々の支援は不可欠である。教育課程を見直し、より充実した体験活動の充実を図る。

「地域に根ざした豊かな体験活動による生き生きとした生徒の育成」

委 嘱 校 さいたま市立原山中学校

1 研究主題

(1) 研究テーマ及びテーマ設定理由

現在の生徒は地域の方と触れ合う機会が減少し、様々な人と良好な人間関係を築く力が身に付いていない。そこで、地域行事への積極的な参加機会を設けるなどして、生徒のコミュニケーション能力を育成したいと考え、「地域に根ざした豊かな体験活動による生き生きとした生徒の育成」を研究テーマとした。

(2) 研究計画

- 4 月 校内分掌担当者による計画の立案・職員への周知
- 5 月 「原山地区ごみゼロ運動」(地域清掃活動)への参加
- 6 月 「三世代ふれあい広場(道祖土小)」への参加
教育活動後援会による事業中間報告、今後の活動の確認
- 7～8月 地域の祭への参加(前地夏祭り・本太夏祭り・原山夏祭り)
- 10月 「原山小ふれあいまつり」「さいどっ子まつり」への参加
- 11月 地域連携「共助避難訓練」の実施
- 12月 「原山自治会親子餅つき大会」への参加 「原山地区ごみゼロ運動」(地域清掃活動)への参加
- 1 月 校内での振り返り(学校評価)
- 2 月 教育活動後援会による事業報告、活動継続に向けたシステム作り
- 3 月 研究紀要の作成



共助避難訓練



原山自治会親子餅つき大会



原山地区ごみゼロ運動

2 本校の取組

(1) 共助避難訓練

避難訓練の際、代表生徒があらかじめお願いしていた近所の高齢者宅を訪問し、災害時の避難の仕方を確認し、全校生徒にその状況を発表した。中学生も災害時には、地域の方の救助にあたる自覚と責任感を育てる取組となった。

(2) 原山自治会親子餅つき大会

中学校区の自治会からの要請により、昔ながらの臼と杵を使った餅つきの手伝いを行った。高齢化が進んでいることもあり、餅のつき手として中学生の参加は、たいへん喜ばれている。生徒も、地域の方々からの教えを受け、初めて餅つきをする体験ができ、地域行事の継承と地域の方々との交流が一層深まる行事となった。

(3) 原山地区ごみゼロ運動(地域清掃ボランティア)

年に2回、地域の方々と協力して、中学校区内の歩道、公園などを回り、「燃えるゴミ」と「燃えないゴミ」に分別して拾い集める取組である。地域内を移動しながら活動することを通して、美化活動に対する意欲の向上や地域への関心が高まることで、地域の方々とのふれ合いの大切さを知る体験になった。

※新型コロナウイルス感染症防止のため、(1)、(2)は中止となり、令和元年度の成果と写真を掲載する。

3 成果と課題

さいたま市では、令和4年度から全小・中学校において「コミュニティ・スクール」の完全実施を計画しており、本校では、今年度はその準備委員会を発足した。これにより学校と地域住民、保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善と児童生徒の健全育成に一層取り組めるようになる。中学生も地域の問題により関心を持ち、地域行事にも積極的に関わることが求められる。本校の取組も地域理解を深め、地域社会に貢献し、地域の方々から見守られながら成長できるものとして、今後も継承していきたい。

課題としては、部活動単位での参加が中心なので、休日の部活動時間との調整が必要であり、現在要請されている地域行事を維持するためには計画的に進めていくことが必要である。

「地域で受け継がれてきた体験活動を通して 地元荒川を愛する生徒の育成」

委 嘱 校 秩父市立荒川中学校

1 研究主題

(1) 研究テーマ設定の理由

地元の魅力を再認識し、将来の地域の担い手である人材を育成していくためにも「社会に開かれた教育課程」の実現が必要とされている。一方で、子どもたちへの教育は学校だけでは完結するものではない。様々な専門知識・能力を持った地域人材に関わることで、将来を生き抜く子どもたちに必要な知識・能力を育成することができる。目標を共有して、地域社会と学校が協働して子どもの教育に取り組むことが必要であると考え、テーマを設定した。

(2) 研究計画

○研究のねらい

地域の方の指導者から伝統芸能である「神明社神楽」、「白久串人形」、食の伝道師の方から郷土食である「そば打ち」、学校ファームで農業指導者の方から農業を学ぶなど、地域の方と交流することで、地域を愛する生徒、表現力の育成と人間関係構築力の向上を図る。

○年間スケジュール

- 4月 総合的な学習の時間の年間活動計画の作成（全学年） 畑の耕起（1，2年）
- 5月 ジャガイモ（2年）、サツマイモ（1年）の作付け
- 6月 伝統芸能の練習（3年）（今年度中止）、畑の除草（1，2年）
- 7月 ジャガイモの収穫及び給食材料で2回使用（2年） 畑の除草（1年）
- 10月 伝統芸能発表会（3年）（今年度中止）、サツマイモの収穫（1年）
- 11月 ちちぶ荒川新そばまつり参加（希望者） 長瀬校外学習（2年）
- 12月 鳥獣対策講演会（今年度中止）
- 1月 そば打ち体験（1年）（予定）（今年度中止）
- 2月 活動のまとめ作成



2 本校の取組

- (1) 農業指導者から学ぶ農業体験活動（ジャガイモ、サツマイモの栽培）
- (2) 食の伝道師から学ぶ「そば打ち」体験活動（今年度中止）
- (3) 地元の自然を感じながらの登山や林業体験を交えた林間学校
- (4) 荒川地域の伝統芸能である「神明社神楽」、「白久串人形」の体験活動及び発表



3 成果と課題

(1) 研究の成果

- ・コロナウイルスの影響もあったが、農業体験を1，2年生全員が実施することができた。自分の手で収穫できたことを喜ぶ姿がとても良かった。

(2) 今後の課題

- ・今年度は林間学校、伝統文化の継承学習ができなかったため、3年生から2年生に継承ができなかった。来年度は早めに打ち合わせを行い、講義してもらうことが大切であると考えている。
- ・農業体験やそば打ち体験の地域の指導者の方々が高齢化し、年々人材確保が厳しくなっている。

